

教員名	加賀美 常美代 (Kagami Tomiyo)
所 属	国際教育センター
学 位	文学博士 (東北大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm / tkagami@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

異文化間コンフリクトと解決 / 教育価値観 / 多文化間カウンセリング /
コミュニティ心理学的援助 / 心理教育と予防的支援

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・加賀美常美代 2006 平成 15 年—平成 17 年度科学研究費補助金基盤 (C)(研究代表者 加賀美常美代) 「異文化間コンフリクトと教育価値観の研究」 pp1-94
- ・加賀美常美代 2006 「文化移行を伴う生徒の予防的協働的援助：こころと学校コミュニティ」 こころと文化 5-1 多文化間精神医学会 pp.35-41
- ・加賀美常美代・箕浦康子・三浦徹・篠塚英子「グローバル文化学に関心のある学生はどのような学生か？」人文科学研究 245-264

◆研究内容

平成 15 年度から三年間取り組んだ科研基盤 C「異文化間コンフリクトと教育価値観の研究」の最終年度として「短縮版教育価値観尺度の開発」、「教育価値観の包括的次元の探索」、「教育価値観と一般的価値観の関連に関する理論的研究」など学会論文としてまとめ、三年間の成果として報告書を作成した。

次に「文化移行を伴う生徒の予防的協働的援助：こころと学校コミュニティ」というテーマで、文化的配慮の必要な日本語未習の中学生の受入に関する取り組み、担任教員、帰国生担当教員、父母、母語話者チューターとの協働と連携によるコミュニティアプローチによる包括的援助体制づくり、世代間の問題解決について学会報告した。

最後に、グローバル文化学環が創設され、教育カリキュラム開発のため、新入生を対象に国際意識調査を実施し、グローバル文化学に関心のある学生がどのような特徴を持っているか、関心度とその関連要因（国際教育プログラムの参加動機と学習動機、理想的自己観、多文化理解態度、キャリア志向、社会イメージ）との関連を検討した。

◆教育内容

学部教育：「異文化間コミュニケーション」、「比較日本文化論」は、参加型授業、グループ活動、留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上、文化差・年齢差・学部を越えた人間関係作りの場の提供と協働を目指した。「異文化間人間関係論概論」では、購読、教師との対話型ゼミナール形式と学生同士の討論など共同活動形式の授業を行った。「学校カウンセリング(教職)」では、コミュニティアプローチによる学校の心理教育的援助の講義、スクールカウンセラー、特別支援教育、帰国生、養護教員 4 名のゲストスピーカーを招き現場教師の意見を聞く機会を設けた。

大学院教育：「異文化間心理教育学特論」は国内外の雑誌講読、大学院前期課程・後期課程院生の研究指導を行った。「異文化間心理教育学演習」は、海外派遣教師、多文化間の教師経験者による事例検討、ロールプレイを行い積極的傾聴に関するスキル向上を目指した。個別指導として学部卒論、修士論文、博士論文及び投稿論文指導を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

- 1) 葛藤解決方略と教育価値観の関連の検討
- 2) 多国籍の対象者に対する教育価値観尺度の有効性の検討
- 3) 教育価値観尺度の実践的応用と教師と学生のための教育プログラム開発
- 4) アジア諸国の対日イメージ形成過程研究と葛藤解決プログラムの開発など。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・ アジア諸国の対日イメージ及び社会イメージ形成過程研究
- ・ 留学生のキャリア形成と帰国留学生ネットワーク

◆受験生等へのメッセージ

留学生の相談をしながら、多様な文化背景を持つ人々とどのように関わったら、よりよい関係が構築できるのか、そのためのコミュニケーションはどのようにしたらよいか、ということはずっと追求してきました。

また、最近では、支援をしない支援とは、相手が負担にならない支援とはどのような支援かを考えています。このようなテーマを一緒に考えていきたいという方、どうぞいらしてください。